

簿記3級仕訳問題 第10回

問. 次の各取引について仕訳しなさい。ただし、勘定科目は、次の中から最も適切と思われるものを選ぶこと。

現金	当座預金	普通預金	売掛金	受取手形
未収入金	貸付金	手形貸付金	有価証券	前払金
支払手形	買掛金	未払金	前受金	預り金
手形借入金	当座借越	借入金	資本金	売上
仕入	給料	租税公課	支払家賃	支払手数料
支払利息	受取利息	有価証券利息	有価証券売却損	有価証券売却益

1. 三重商店より商品¥300,000を仕入れ、代金のうち¥100,000については内金と相殺し、残額については掛けとした。なお、引取運賃¥5,000は現金で支払っている。
2. 愛知商店に貸し付けている貸付金¥400,000を3ヶ月分の利息と共に愛知商店振り出しの小切手で回収した。利息は年利5%で利息の計算は月割りで行う。
3. 新潟商店に対して掛けで販売した商品¥120,000のうち、一部傷があったため¥10,000の値引きを行うことにした。ただし、掛代金は既に入金済みであったため普通預金口座より支払った。その際に振込手数料¥756が普通預金口座より差し引かれている。
4. 利根川株式会社へ、半年の約束で資金¥1,000,000を貸し付けるため、取引銀行の当座預金口座より振り込んでいる。なお、振込手数料¥756は利根川株式会社の負担とすることで合意している。その際に、利根川商店振り出し、当店受け取りの約束手形¥1,000,000を受け取っている。
5. 当期に額面¥100につき¥97.0、購入手数料¥15,000で買い入れた額面総額¥2,000,000の岡山株式会社の社債20,000口を、額面¥100につき¥98.5で売却し代金は後日受け取ることになっている。

簿記 3 級仕訳問題 第 10 回 答案用紙

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1				
2				
3				
4				
5				

簿記3級仕訳問題 第10回 解答・解説

	借方科目	金額	貸方科目	金額
1	仕入	300,000	前払金 買掛金 現金	100,000 200,000 5,000
2	現金	405,000	貸付金 受取利息	400,000 5,000
3	売上 支払手数料	10,000 756	普通預金	10,756
4	手形貸付金	1,000,000	当座預金	1,000,000
5	未収入金	1,970,000	有価証券 有価証券売却益	1,955,000 15,000

1. 仕入の手付金は前払金、売上の手付金は前受金なので混同しないよう留意しよう。また似たような科目である仮払金や仮受金との違いもしっかり理解しておこう。
2. 特に難しい問題ではないが、他人振出の小切手は現金で処理することに注意。
3. 実務では、代金が決済された後に返品・値引きが発生すること少なからずある。見たことのない問題に慌てずに対処出来るかがポイント。また普通預金から支払われているのでケアレスミスには注意したい。
4. 本間はなかなか正解出来なかったのではなかろうか。銀行の振込手数料が先方負担になるケースは実務でも多く、知っておいて損はないと思う。間違っても振込手数料は相手負担なので「支払手数料」勘定を使用しないこと。自社は振込手数料合わせて¥1,000,000を当座預金より減額させる。厳密には利根川株式会社に¥999,244を振り込み、銀行に¥756を当座預金口座より支払っているのだが、振込手数料を無視した場合と何ら変わらない仕訳になっている。この場合、利根川株式会社側の仕訳は、受取金額¥999,244と支払手数料¥756を借方計上し、貸方に「手形借入金」¥1,000,000で処理する。資金の融通目的で受け取った約束手形は、受取手形ではなく手形貸付金で処理しよう。
5. 公社債の売却の問題であるが、最初に取得原価を計算して求めないと売却損益は出せない。計算すると取得原価は¥1,955,000となり売却益が計上される。